

しが旅のススメ



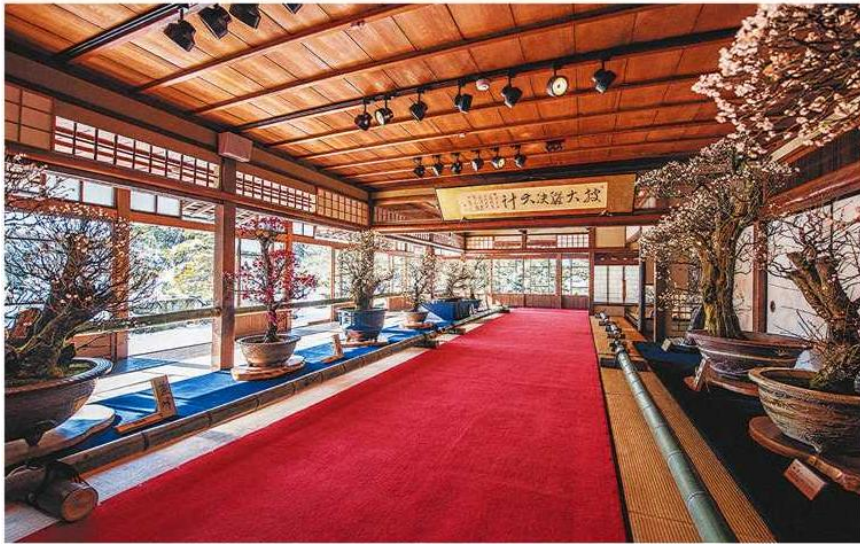
長浜盆梅展を紹介するHPはこちらから



長浜観光協会は来年1月10日〜3月10日に、長浜市港町の慶雲館で新春の風物詩「長浜盆梅展」を開催します。盆梅とは鉢植えの梅、つまり梅の盆栽のこと。開花時期に応じ、約300鉢から常時約90鉢を展示し、中には高さ3メートル近い巨木や、樹齢400年と伝わる古木もあります。1952（昭和27）年から始まった盆梅展は、今回で74回目です。その歴史は、大正期に高山（現長浜市高山町）で養蚕業を営んでいた高山七蔵を起源として

■ 長浜盆梅展（長浜市）

起源は大正 人気の風物詩



本館の座敷に並ぶ庄巻の盆梅＝いずれも長浜市港町の慶雲館で

ます。当時は梅干しが外での仕事に欠かせない保存食だったため、山や畑には梅の木が植えてありました。七蔵は毎年、枝ぶりのいい梅の古木を掘り起こし、大

51（昭和26）年に、66歳の七蔵は40年近くにわたって育てた盆梅約40鉢を長浜市へ寄贈します。その翌年に盆梅展が始まりました。その歴史や規模から、今や日本一の盆梅展として人気があり、関西の風物詩となっています。

今回も本館では、明治建築の純和室にすらりと並ぶ盆梅が訪れる人を魅了します。新館では本年度初の試みとして、「心を写す写心家片岡司氏（スタジオアージュル代表）と盆梅のコラボレーションを実施。「森羅万象（水）」をテーマにした展示が登場します。

また、ライトアップの時期には自慢の庭園が幻想的な世界に誘います。一人でも多くの方の来場をお待ちしています。

（長浜観光協会・高木祥次）



ライトアップ期間中に楽しめる幻想的な盆梅



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから

【アクセス情報】慶雲館へはJR長浜駅びわこ口（西口）から徒歩3分。車は北陸自動車道長浜インターチェンジ（IC）から15分、米原ICから20分。協会の電話は0749（53）2650